

不思議3 再建その1

延暦19年(800)に創建されたと伝わる御霊神社本殿は、その後、何度も再建されているはずですが。現存する棟札は「康正元年(1455)」と「寛永14年(1637)」の二枚で、それぞれの年に再建されたことが分かります。

正長元年(1428)8月、近江で始まった一揆は畿内に波及し、9月には京都、奈良、11月には宇智郡でも一揆が起きました。

「畠山記」によれば、霊安寺には600人が立て籠もったとあります。当時、宇智郡を治めていた畠山氏の軍勢700余騎で攻めるも落とすことができませんでした。それで強風の日に火を放ちました。

「猛火四方にほとぼしり、黒煙天を覆い、今こそと牧野、桜井の軍勢が一番手になって一ノ鳥居を七千騎(七百騎の誤りか)にて駆け出した。凶徒はこれに驚いて右往左往に乱れて逃げるのを、追いかけて討ち取った。疾風雷鳴の如くに起きて、御霊社、本地堂、仏宇、民家まで一時に燃え上がり、およそ五百余ヶ所に及び焼失した。」

一揆鎮圧には成功したものの、霊安寺、御霊神社は焼け落ちてしまいました。その後、霊安寺は再興し、御霊神社も康正元年に再建されました。

社伝では「弘長元年(1261)社寺トモ兵火ニ罹リ焼失ス後コレヲ再建セシ」とあり、霊安寺も御霊神社も何度も焼失、再建を繰り返したであろうことが推測されます。